

2024年2月29日 やどりぎ案内

令和5年度
福島県 集落自主活動に係る伴走支援事業
業務実施報告書



<目次>

1. はじめに … p.3
2. 今年度の活動「えんの繋ぎ目」とは … p.3
3. 活動内容の詳細
 - 3-1. シャッターアート … p.4
 - 3-2. 移動式拠点「ししまい」の制作 … p.6
 - 3-3. 屋号文化に関する2つのワークショップ … p.7
5. おわりに … p.9

1. はじめに

やどりぎ案内とは、2021年から西会津町中町集落でアートプロジェクトを実施している有志団体である。現在、東京藝術大学・武蔵野美術大学をはじめとする東京都内の美大生を中心に、8名程度が流動的に参加している。

活動拠点としている中町集落は、「過疎化」と「高い高齢化率」が進んでいる状況にあり、町外の若者と集落を繋ぐきっかけを作り、「関係人口の創出」を促す必要がある。そのため、やどりぎ案内がアートプロジェクトを通して目指すのは、観光事業の発展ではなく、集落の方々と我々が親交を深めるための場をつくり、それによって自らが「関係人口」となることである。

昨年度実施したアートプロジェクト<もの語りの層>をはじめとする、年3、4回の集落での活動から、集落住民の方々に「やどりぎ案内」という名前や個人名を覚えてもらえるようになり、自らが「関係人口」として集落の方々と距離が縮まっている様子を実感できている。活動3年目を迎える今年度は、昨年に引き続き、アートプロジェクト<えんの繋ぎ目>を実施した。これからその活動について説明する。

2. 今年度の活動<えんの繋ぎ目>概要



<えんの繋ぎ目>は、これまでの活動で巡り合った「ご縁」を、これからにつなげる場を作り出すことを目指したアートプロジェクトである。8月には「シャッターアート」と移動式拠点「ししまい」の制作の場を公開し、11月には8月に制作した「ししまい」を活用して、2日間にわたり中町集落の屋号文化に触れる2つのワークショップを実施した。

活動スケジュールは以下の通りである。

夏 <移動式拠点「ししまい」・「シャッターアート」の公開制作>

※8日間の滞在

- 8/22 (火) 移動日
- 8/23 (水) 公開制作準備日・「ししまい」制作開始
- 8/24 (木) 公開制作1日目：「ししまい」制作
- 8/25 (金) 公開制作2日目：「ししまい」制作・シャッターアート (午前・夕方)
- 8/26 (土) 公開制作3日目：「ししまい」制作・シャッターアート (午前・夕方)
- 8/27 (日) 公開制作4日目：「ししまい」完成・シャッターアート (午前・夕方)
- 8/28 (月) 片付け・シャッターアート仕上げ
- 8/29 (火) 移動日

秋 <屋号文化に触れる2つのワークショップ>

※6日間の滞在

- 10/31 (火) 移動日
- 11/1 (水) 屋号紋・やきばんこ (屋号紋) 調査日
- 11/2 (木) 屋号紋・やきばんこ (屋号紋) 調査日
- 11/3 (金) ワークショップ1日目
- 11/4 (土) ワークショップ2日目
- 11/5 (日) 移動日

3. 活動内容の詳細

3-1. シャッターアート





集落の住宅のシャッターに絵を描く「シャッターアート」は、この3年の活動でお世話になっている集落の方へお礼としての贈り物がしたいという思いから実施した。

絵を描かせていただいたシャッターの持ち主の方とは、活動初期から親しくしていただいている。生まれてから今までずっと中町集落で暮らしており、花・猫・かわいくて綺麗なものが好きな女性である。ご自宅に彼女が毎日大切に世話している庭があり、私たちはそこに咲いている花の名前や特性を教えていただけるのを毎度楽しみにしている。何度か奥川と一緒に散策し、その間奥川の土地や植物についてお話を伺ったり、彼女のとおき場所に連れて行って貰ったりする機会にも恵まれ、私たちに奥川・中町集落の魅力を沢山教えてくださいました。活動を行う前に数回彼女の希望を伺い、メンバーとも百合子さんの人柄・お好きなもの、そして集落の印象深い景色を話し合った。その結果主な題材を「花(特に山百合)」「可愛らしい童話的なイメージ」「ご自宅の庭」の3点に決めた。そして制作時には事前に下絵を用意せず、シャッターへ直接ペンキを塗布してできた色むらから、4人のアーティストが花などの形を連想して描くことで、野山から季節の草花を見つけ出すように制作できないかと考えた。

炎天下での制作は午前中と夕方の2回に分け、4日間に渡って行った。シャッターは集落内の主要道路に面していたことから、車・バイク・電動スクーターで通りがかる集落内外の方々ともお話ししながら制作でき、「ツーリングの道中で集落を通る人たちに、シャッターアートを通して集落の存在を意識してもらえる」と喜んでいただける機会も多かった。持ち主の方にも完成後にお見せでき、題材や描き方についての説明と描いた庭の草花を紹介したあとで、改めてこれまでの感謝をお伝えできた。今後別の場所でシャッターアートを行う場合は、今回以上にこれが集落の公的な景観のイメージとして残り続けることを意識して、今の中町集落の良い記録となるような作品を制作したいと考えている。

3-2. 移動式拠点「ししまい」の制作



これまでの集落との交流を通し、集落の方には私たちが覚えて暖かく迎えていただき、私たちも集落で会いたいと思う方がたくさんいるようになった。しかし、滞在中に全員に会うことはなかなか難しく、最終日にやっと会えて「来ていたのを知らなかった。もっと早く教えてくれたらよかったのに」と声をかけてもらうことも少なくなかった。

私たちが訪れたということを今より伝わりやすくし、また新たな交流の場を生み出すことを両立できないか？という思いから、「やどりぎ案内の拠点を作ろう」という発想に至った。そして拠点がラーメン屋の屋台のようなものであれば、集落で屋台を引けばやどりぎ案内が来て何かしているということが一目でわかり、また集落内のどこでも場を作ることができるのでは？という事で拠点は移動のできる屋台型に決まった。

移動式拠点「ししまい」には以下2つの目的がある。

①交流の場

やどりぎ案内が集落を訪れた際、屋台の存在がシンボルとなり「やどりぎ案内が来た」ということが集落の皆さんに伝わりやすくなる。そこから新たな交流の場としての機能が生まれる。

②アーカイヴ

やどりぎ案内がこれまで実施してきたプロジェクトのアーカイヴは勿論、そのプロジェクトに至るまでのリサーチ・交流内容を見ることができるとして機能させる。やどりぎ案内の集落での活動を確認できる場を開き、集落と活動の周知を図る。

「ししまい」は設計から組み立てまで全てやどりぎ案内のメンバーで行い、8月にはシャッター後の制作と同時に、集落内の体育館で公開制作という形で組み立てをした。

3-3. 屋号文化に関する2つのワークショップ



11月には、夏に制作した「ししまい」を実際に活用し、それを拠点として**集落の屋号文化にまつわるワークショップ**を行なった。

中町集落には、苗字とは別にそれぞれの家庭を**屋号**で呼び合う文化があった。集落内には同姓の苗字が多いため、屋号により区別をしていたようだ。屋号の名前には、かつての家業や集落のどの位置に家があるか、家のある環境などを由来としたものが多く、屋号のお話を伺うと、集落の人々のこれまでの暮らし文化を感じることができる。また、集落では「**やきばんこ**」と呼ばれる、**屋号紋**および屋号紋が刻印できる**焼き印**を持つ家が多い。「やきばんこ」は、農具や下駄に刻印することで他の家の物と区別するために使われていた、いわば名前シールのようなものだ。その使用方法からも集落の暮らしぶりが窺えるが、紋のデザインにも家業や祖先の名前を由来としたものなどがあり、それぞれの家の歴史を感じさせる。

屋号文化の魅力と、屋号を通して集落の暮らしの文化を再周知すること、またワークショップを通じた交流の場を開くことを目的に、以下2つのワークショップを実施した。

①屋号を知ろう!



屋号の名前とやきばんこの形を集落の住民の方にお聞きし、ワークシートに記録した。記録したワークシートは拠点に飾っていき、集落内の屋号を集めた。

②やきばんこ(屋号紋)をデザインしよう!



屋号紋に頻出するいくつかのマークのハンコを用意し、ハンコを組み合わせることで自分だけのやきばんこをデザインするワークショップ。屋号文化を身近に感じてもらう他、やきばんこの視覚的な魅力を伝える狙いがあった。

この2つのワークショップを基本として、来場者には実際に木板にやきばんこを刻印してもらったり、時にはししまい号を引いて集落内を練り歩き、出会った集落の方に屋号についてお話を伺ったりもした。またワークショップ期間中は、ししまい号にやきばんこが刻印された下駄や農具、またやきばんこそのものを展示した。

ワークショップでは、私たちのような集落外の人が屋号を知るだけでなく、集落住民の方同士が屋号について話す場面も多く見られた。また、やきばんこは集落内でも所持していない、残っていない家も多く、やきばんこ自体を初めて使ったという集落住民の方もいらっしゃった。集落内外関わらず、ししまい号を囲んで中町集落の屋号文化を共有する場を参加者の方とつくることができた。

5. おわりに

今年度やどりぎ案内が実施したアートプロジェクト〈えんの繋ぎ目〉は、21年からの活動を通じてできた集落の方々との「ご縁」をこれからは繋げるために、「シャッターアート」・『移動式拠点「ししまい」の制作』・「屋号文化に関する2つのワークショップ」の3つの活動を実施した。プロジェクトの実施期間を夏と秋の2回に分けたことで、夏の公開制作で出会った方が秋のワークショップに参加してくださり、そこでさらに親しくなるなど、1年の間に集落内外問わず多くの方々と知り合い、親交が深まったのを感じられた。

来年度の夏は、すでに、西会津国際芸術村と中町集落の2ヶ所で展覧会を開催することが決まっている。ここでは「やどりぎ案内」というひとつの団体として活動してきたメンバーが、それぞれ普段どのような作品を制作している作家なのか紹介し、そのうえで各々がどのように中町集落と関わってきたのか見えてくる展示を行いたい。

やどりぎ案内は年々学生を終えるメンバーが増え、徐々にこれまでのような活動が難しくなっている現状にある。しかし、中町集落でアートプロジェクトを実施したメンバーにとって、西会津町中町集落は「また必ず帰ってきたい」と思える第2の拠点となっていることも確かである。来年度は展覧会をつくっていくなかで今後の活動方法を模索したい。そして私たちをあたたかく迎えてくださる集落の方々と、継続的に関わっていきたいと思う。

